

秋吉台地下水系

(あきよしだいちかすいけい)

位置：北緯34度15分、東経131度18分／標高：80～425.5m／面積：563ha／湿地のタイプ：地下水系、カルスト／保護の制度：国定公園特別地域／所在地：山口県美祿市／登録：2005年11月／国際登録基準：1

湿地のタイプ：地下水系、カルスト



カルスト台地のドリーネ群



キクガシラコウモリ



秋芳洞の百枚皿

湿地の概要：

秋吉台は、山口県の中西部にある日本最大級のカルスト地域である。標高200～400mのゆるやかな台地で、総面積は約1万ヘクタール。その中央部を流れる厚東川によって東西に分けられ、東側の台地の563ヘクタールの地下に発達した地下水系と、秋芳洞(あきよしどう)、大正洞(たいしょうどう)、景清穴(かげきよあな)(洞)の三つの洞窟が条約湿地として登録されている。ラムサール条約という湿地の概念は広く、多様であり、地下水系も重要なものである。

秋吉台は約3億4,000万年前から約2億6,000万年前にかけて海底火山の頂部周辺に形成されたサンゴ礁に由来する。このサンゴ礁は、プレート運動により移動しながら8,000万年にわたって成長し続けた後、大陸プレートに衝突、付加した。そして、少なくとも数百万年前には地表付近まで隆起し、地表由来の水によって長い年月をかけて少しずつ溶かされることで、カレンフェルトやドリーネといったカルスト特有の地形が形成された。

地下水系と洞窟：

秋吉台の地下には、石灰岩の割れ目が溶食されることでできた洞窟に地表水や

土壌水が集められ、豊富なカルスト地下水系が発達している。東側の台地の地下水系は、全体として北東から南西に流れ、厚東川へと合流している。南部の秋芳洞水系と北部の鹿ノ井手水系が主要な水系で、その流域には多くの洞窟が網の目のように形成されている。

秋芳洞水系と鹿ノ井手水系は台地上流の非石灰岩地域の地表水も集めており、それぞれ約1,400ヘクタール及び約1,200ヘクタールの集水域を持つと推定される。

洞窟の生きものたち：

地下水系の洞窟内には、暗闇の世界に適應して目が退化したものや、色素を失い体色が白くなったものなど、特殊な洞窟性動物と地下水中で生活する水棲貝類などが多数生息している。キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリなどコウモリは6種、2万頭以上が確認されている。

魅力的な観光地：

秋吉台には国内外から多くの観光客が訪れる。秋芳洞にはエレベーターや音声ガイドも設置され、幅約80m、長さ約175mの広がりを持つ巨大な地下空間や、百枚皿、洞内富士、黄金柱といった多種多様な形に成長した巨大な鍾乳石など、

神秘的な光景を楽しむことができる。

【キクガシラコウモリ】 顔の前面に馬蹄形をした鼻葉(超音波を発信して位置を測定するための器官)をもった、洞窟性のコウモリ。夜になると洞窟を出て昆虫を捕食し、明け方にもどってきて、洞窟の天井から逆さにぶら下がって休む。秋吉台の洞窟に約3,600頭が生息する。

●関係自治体

美祿市役所 Tel: 0837-52-1110

